

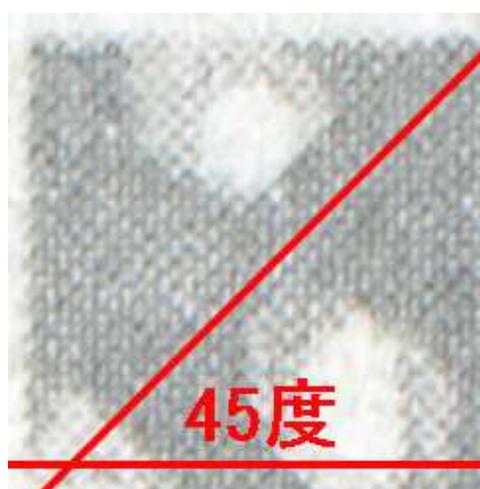
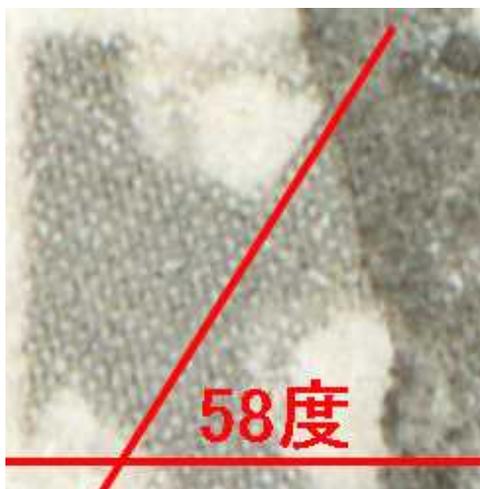
記念切手のグラビアスクリーン（2）

永吉 秀夫

今回の話題は昭和33年の年賀切手「いぬはりこ」です。右の使用済ペ
アが筆者にとっては思い出深い切手で、これがきっかけで記念切手のグ
ラビアスクリーンに連れ込まれることになりました。

斜めに押されたローラー印は、データ(帯広/34/4.2)が鮮明です。好
ましいマテリアルとして仮貼りリーフに貼ってあったのですが、2001年
春のある日、何の気なしにルーペで見えてびっくりしました。近くに
貼ってある他の切手と比べて、明らかに黒色の点々の並んでいる方向(ス
クリーン角度)が異なるのです。印面左上隅のほんの一部の拡大図を、普
通の切手と並べて下に示しました。補助線も添えておきます。

当時の『日専』には、普通切手のスクリーンについてはかなり詳しい
分類表が載るようになりましたが、記念切手については全く載っていま
せん(それは今のカタログでも同様)。新発見なのかどうかもわからない
まま時が流れましたが、その後の調査でこれが小型シートの一部に見ら
れるバラエティであることを確信するようになりました。



	黒	赤	緑	黄	備考
①	45	68	55	86	小型
②	45	72	55	86	20面
③	45	73	62	90	小型
④	45	75	55	86	小型
⑤	58	68	55	86	小型

今までの調査結果をまとめると左表のようになります。数値が
スクリーン角度ですが、どんな切手でもまず間違いなく観測でき
るものを赤で、大半の切手では測定困難なものを青で示しました。
使用済単片であってもそれが20面シート・小型シートのいずれ由
来かを確実に区別できるのですが、ルーペだけでは①～④の分類、
中でも角度差の小さい②と③の分類はなかなか難しいでしょう。

表の5つのバラエティの中では⑤の黒58度がやや少ないですが、
大珍品というほどではありません。ルーペでちょっと見ただけで識別できます。皆様も探してみま
せんか？